

財政課の目標（平成20年度）自己評価書

財政課長 大坂俊男

- 達成度
- 5 目標を完全に達成した。
 - 4 目標を概ね達成した。
 - 3 目標を一部達成した。
 - 2 目標をほとんど達成できなかった。
 - 1 目標をまったく達成できなかった。

個別事業とその目標	達成度	目標達成の効果又は達成できなかった理由等
<p>1 行財政改革の推進</p> <p>(1) 財政健全化の推進</p> <p>財政の健全化を図ることが町の急務であり、全体事業を見直すとともに効率の良い予算執行を指導します。</p> <p>予算編成に当たっては、酒々井町財政健全化緊急対策計画を策定し、現状を把握し、歳出の削減と歳入の確保に努め財政の健全化に務めます。</p> <p>また、平成20年度より行われる公会計制度の状況を把握するとともに、広く町民に周知を図ります。</p> <p>(2) 公有財産の管理</p> <p>公有財産のうち、活用のされていない財産について公有地活用検討委員会で検討を行い、適正な利活用について処分も含めて検討を継続的に行います。</p> <p>活用、処分については、厳しい財政事情の中でもあり財源の確保に繋がるように活用の推進を図ります。</p> <p>(3) 契約制度改革の推進</p> <p>適切な入札制度を行うため、平成21年度より電子調達システムの導入を図り、一般競争入札の執行をより推進します。</p>	<p>過去の負債や予算の修復 5</p> <p>将来へ財源確保 2</p> <p>3</p> <p>4</p>	<p>財政健全化については、予算編成等を通して、削減や節約の検討を行ったが、水道企業会計への2億円の償還は完了したものの、世界経済の落ち込みの影響を受け光熱水費・資材等の高騰の影響、過去において減額を行った福祉サービス事業等の修復、電算関係機器の耐用年数による更新等によるもののほか、子育て支援対策の充実や教育環境の整備に要する費用が多額であり、将来に対する財源確保のための財政調整基金への積み立てが予算に組み込めず、次年度以降への課題として残ってしまった。</p> <p>公有地の活用については、活用の検討を行い、活用できる範囲で利活用が図れた。活用されなかった公有地については、民間等との意見も聴き検討したが難しいものがある。引き続き、模索していきたい。</p> <p>電子調達については、平成21年度導入に向けて研修を行った。</p>

<p>なお、検査についても精度を高め、検査体制の充実を図り、職員全体の予算執行の適正化を図ります。</p> <p>また、総合評価方式の導入・拡充についても十分研究検討し、必要な体制の整備を行います。</p>	<p>検査の程度については、要綱等の見直しを行い、一定の体制は整った。が、継続性を持って行くべきと考え、その中でさらに精度を高める工夫を行う検討が必要に思われます。</p> <p>更には、平成21年度より総合評価方式による一般競争入札を行うためにも、適正な検査体制が重要となるため注意して契約事務を行ってまいりたい。</p>
---	--